

- 10 肺 結 核
 11 肺尖加答兒
 12 胸膜炎及其の轉歸症
 13 其の他の呼吸器病

二、呼吸器系統患者と總従業員及總罹病者との關係(第一表参照)

其の一、總従業員との關係

- (一) 總従業員一萬人に對して、呼吸器病者は一五・六。
 (二) 之を職業別に見るときは、最罹病率の高いのは、雇員や監督や守衛等、身體労働者にあらざる種類であることに注意すべく、その數は萬分の二三・五である。
 (三) 之に次ぐは信號人にして萬分の一九・一。
 (四) 乗務員たる車掌と運轉手とに於ても、右の二つに亞ぐ高率で、夫れづ一七・六及び一七・二である。
 (五) 最も呼吸器病者の少きは工夫にして、萬分の五・四その上が雜役夫で八・四。
 (六) 職工に於いては、萬分の一五・〇なる數を示して、平均値(一五・六)よりは少し低いが、罹病率の

低き工夫や雜役夫とは大逕庭を示してゐるから、高率の群に入る。

- (七) 之を要するに、總従業員中呼吸器病者の多く出る職業は、雇員や監督等の身體労働をなさざるものに最も多く、次は信號人それから乗務員と職工とで、以上が高率の一群を成し、之に反して工夫や雜役夫は低率にして、就中、工夫が最安全なる情態に居る。

其の二、總罹病者との關係

- (一) 總罹病者中、本病者の存する割合は、平均、百人中一〇・〇。
 (二) 之を職業別に見るに、其の最高率を示すは、矢張り雇員、守衛、監督等の非労働者側の部に於いて、百分の一三・七。
 (三) 信號人に於いては、百分の二二・〇で第二位。
 (四) 第三位にあるは乗務員にして、就中、運轉手は百分の一〇・三。車掌は百分の一〇・二
 (五) 職工は之に亞ぎて、百分の九・六。即、平均値よりは僅か低いが例の如く二群に分ちて觀察するとき、高率型に屬する。
 (六) 最低罹病率を有するものは工夫にして百分の六・七。その上が雜役夫にして八・四。
 (七) 之を要するに、總罹病者中、呼吸器系統疾患患者は前節と同様に雇員、守衛、監督等それから信號人乗務員、職工といふ順序になり、工夫や雜役夫に於いては大に低率である。

三、呼吸器系統疾患と月次との關係

一、總従業員との關係 (第二表及第三表参照)

(一) 大正七年初から大正九年末に至る呼吸器病患者は、一年の前半期に比較的多く、就中、二及び三の兩月は最高にして、夫れ々々萬分の一七・七及び一七・八である。之に反して後半期には少く、就中七、八兩月は低くして夫れ々々萬分の一四・四及び一四・一である。但、九月以後は再び上りて、十一月には一六・一に達する。

(二) 右の傾向は、大正十年に於けると相反するが、これは恐らく大正八年及び九年の頃に大流行したる流行性感冒よりの影響が蓋し多大であらうと考へる。この事は後日、更に別の材料を以て調査するつもりである。

(三) 兎に角此の三年間の統計では、一般に呼吸器病の最も少い月は十二月で一四・〇次が一月の一四・二又最も多き時は三月で一七・八である。即その間の高低差は餘り著大ではない。

二、右の各職業別との關係

(一) 之を職業別に見るときは、共通型の一群は、車掌と運轉手と職工との三つにて、他の三種は相互に不共通の不規則型である。

(二) その中、車掌に於ける最高は五月の二〇・七にて最低は十月の一四・〇である。その他二月と三月と高く、秋季に少し上る傾向を見せるが、十二月と一月に於いて再び少くなる。

(三) 運轉手に於ては、最高は二月にて、萬分の二二・四。最低は七月で二三・一。その他、矢張り晩冬初春と、秋季とに高率であり、夏季最も低い。

(四) 職工に於いては、最高が五月にて、一八・三。最低は十二月の二二・四。その他二、三、四の三ヶ月と十、十一月の兩月に高く夏季に低い。

(五) 工夫の罹病率は一般に低くて、其の最高が四月の九・一最低は七月の一・九。而て概して酷暑時には少く、晩春と晩秋とに多い。

(六) 信號人に於ける罹病情態は極めて不規則にして、何等一定の傾向を見ず、三月が最高で三一・一。次は七月で二五・六。最低は十二月の零、並に五月と八月とである。

(七) 之を要するに、

(1) 呼吸器系の疾患は一年の前半期に多く、後半期に少い。その中でも最夏期に少い。

(2) 車掌、運轉手、職工に本病多く、工夫に本病甚少い。

(3) 信號人の罹病情態は極めて變差甚しい。

三、全罹病従業員との關係 (第四表及第五表参照)

- (一) 呼吸器病者が各種の疾病中、比較的澤山出るのは、二月、三月と、十一月とである。最高は二月で百分の十二・六。又最少なのは夏の七、八兩月で夫れく百分の八・一及び八・〇である。
- (二) 右の統計にも、大正八年及九年の交に大流行したる、流行性感胃の影響が大に及んでゐることと思はれる。更に精査の上これをも論述することにしよう。

四、右の各職業別との關係

- (一) 之を職業別に見るときは、車掌と運轉手と職工とが共通型を呈すること他の場合と同様であり、工夫と雑役夫とに於いては、其の變動差が随分劇しいのであるが、しかも冬より初夏にかけては比較的上述の共通型に近より、之に反して後半期に入るや相互の不共通點が著しく目立つてくる。
- (二) 運轉手に於ける罹患者は、二月が最高で百分の一四・六。最低は七月で六・九。又、秋冷の候より大に高率となりて、十一月は一・七である。
- (三) 車掌に於いては最も平均曲線に近くして、其の最高は三月の二二・二。最低は七、八兩月の九・二。
- (四) 職工に於ける最高率は二月にして、一三・二。最低は七月の六・八。其の他の罹患者變動の情態は上記の二種に於けると大差はない。
- (五) 雑役夫の罹病法は、共通型と不共通型との中間型にして、各月に於ける變差も常に劇しい。而て他と趣きを異にして春暖の四、五、六月と初夏とに最も本病者が少い。

(五) 工夫に於いては、その罹患者の数は少いが、その率の變動は甚しい方であり、信號人に於いては、最不規則の高低を呈し最高は三月の一九・二より最低は十二月の零に至る。

(六) 以上、五項を通觀するに、各種の疾病中、

- (1) 呼吸器病の現れることは一般に車掌、運轉手、職工に於て多く、殊に一年の前半期中の嚴冬初春と後半期の秋冷時に多い。
- (2) 冬期より初春にかけての罹病情態は、共通型の一群なると不共通型のものなるを問はず、均しく高率を示し温暖暑熱の季に入りて後に、二群が明かに分離するのが一特徴である。これは呼吸器なる疾患は孰れの職業に於いても冬季と秋冬季とに群を擡んで、多くなることを示すものである。
- (3) 雑役夫に於ける中間型の不規則曲線はその原因を更に研究する要がある。

四 總 結 論

以上の如く、各方面より大正七年乃至九年の滿三年間に於ける呼吸器病患者の統計的觀察を行ふに、

- (1) 其の罹患者の最高は、身體的労働者に非ざる守衛や監督や雇員であつて、之に次ぎて、乗務員(車掌及運轉手)竝に職工の一群である。
- (2) 罹患者の最低は工夫である。

第一表

自大正七年 三箇年間従業員に対する呼吸器病患者比較表
至大正九年

區分	職別	年次			計	平均
		大正七年	大正八年	大正九年		
延 人 員	車 掌	1,007,431	1,147,750	1,419,331	3,574,512	1,191,504
	運 轉 手	728,032	826,790	1,050,322	2,605,144	868,381
	信 號 人	17,095	20,039	16,179	53,313	17,771
	職 工	552,493	737,395	855,281	2,145,169	715,056
	工 夫	249,529	268,281	328,202	846,012	282,004
	雜 役 夫	140,487	146,470	180,005	466,962	155,654
	其 の 他	22,689	21,987	147,431	192,107	64,036
	計	2,717,756	3,168,712	3,996,751	9,883,219	3,294,406
何 か の 疾 病 に 罹 り し 者 の 員	車 掌	19,816	19,944	21,876	61,635	20,545
	運 轉 手	14,252	14,042	15,282	43,576	14,525
	信 號 人	354	253	244	851	284
	職 工	10,407	11,225	11,886	33,528	11,176
	工 夫	2,204	1,803	2,312	6,819	2,273
	雜 役 夫	1,854	1,250	1,574	4,678	1,559
	其 の 他	209	267	2,824	3,300	1,100
	計	49,096	48,794	56,497	154,387	51,462
呼 吸 器 病 患 者 延 人 員	車 掌	2,678	1,911	1,171	6,300	2,100
	運 轉 手	1,690	1,431	1,370	4,491	1,497
	信 號 人	64	35	3	102	34
	職 工	1,191	1,171	855	3,217	1,072
	工 夫	192	105	160	457	152
	雜 役 夫	170	113	110	393	131
	其 の 他	35	7	410	452	150
	計	6,020	4,773	4,619	15,412	5,137
從 業 員 對 呼 吸 器 病 比	車 掌	26.6	16.6	12.1		17.6
	運 轉 手	23.2	17.3	13.0		17.2
	信 號 人	37.4	17.5	1.9		19.1
	職 工	21.6	15.9	10.0		15.0
	工 夫	7.7	3.9	4.9		5.4
	雜 役 夫	12.1	7.7	6.1		8.4
	其 の 他	15.4	3.2	27.8		23.5
	計	22.2	15.1	11.6		15.6
罹 病 者 對 呼 吸 器 病 比	車 掌	13.5	9.6	7.8		10.2
	運 轉 手	11.9	10.2	9.0		10.3
	信 號 人	18.1	13.8	1.2		12.0
	職 工	11.4	10.4	7.2		9.6
	工 夫	8.7	5.8	5.7		6.7
	雜 役 夫	9.2	9.0	7.0		8.4
	其 の 他	16.7	2.6	14.5		13.7
	計	12.3	9.8	8.2		10.0

- (3) 車掌の罹病情態は最平均型に近い。
- (4) 信號人の罹病情態は極めて不規則にして、何等特殊の季節的關係を見出さない。
- (5) 季節に就きては、一般に嚴冬から初春にかけてと、秋冷時との兩期に高率を示し、温暖の春季より酷暑の夏期に亘りて、常に最も低率である。
- (6) 總罹病者中に於ける本病者は、比較的嚴冬より初春にかけて甚多數に發生する。
- (7) 尙、委細の事は、上述各表及第六表を見られよ。—— 以上

職別	月 別												計
	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	
全 從 業 員	279,186	258,432	279,031	276,910	288,858	288,240	303,397	308,698	305,250	327,670	322,200	337,590	3,574,512
呼 吸 器 病 患 者 比	477	487	573	472	597	520	552	553	545	460	527	537	6,300
萬 分 比	17.1	18.8	20.5	17.1	20.7	18.0	18.2	17.9	17.9	14.0	16.4	15.9	17.6
運 手	201,438	186,522	204,538	200,250	210,056	209,310	219,846	284,874	222,000	240,095	236,820	249,395	2,605,144
呼 吸 器 病 患 者 比	323	417	427	403	374	385	288	338	340	388	419	389	4,491
萬 分 比	16.0	22.4	20.9	20.1	17.8	18.4	13.1	15.0	15.3	16.2	17.7	15.6	17.2
信 號 人	4,650	3,890	4,495	4,170	4,402	4,350	4,619	4,340	4,200	4,805	4,680	4,712	53,313
呼 吸 器 病 患 者 比	5	6	14	5	1	6	58	1	3	2	2	1	102
萬 分 比	10.8	15.4	31.1	12.0	2.3	13.7	125.6	2.3	7.1	4.2	2.1	2.1	19.1
職 工	161,386	132,488	166,617	162,120	167,338	167,520	173,313	186,651	212,680	199,464	194,040	200,662	2,145,169
呼 吸 器 病 患 者 比	204	272	258	268	307	239	222	251	291	332	325	248	3,217
萬 分 比	12.6	17.8	15.5	16.5	18.3	14.3	12.7	13.5	13.7	16.6	16.7	12.4	15.0
工 人	68,665	65,448	71,599	65,130	69,099	68,280	72,633	71,703	75,290	75,454	73,800	68,851	846,012
呼 吸 器 病 患 者 比	39	37	29	59	53	22	14	24	32	50	42	56	457
萬 分 比	5.7	5.7	4.1	9.1	7.7	3.2	1.9	3.3	4.3	6.6	5.7	8.1	5.4
雑 夫	36,850	34,248	37,324	38,490	40,517	34,830	42,966	42,067	43,140	34,939	34,650	46,872	466,962
呼 吸 器 病 患 者 比	32	28	42	20	22	21	43	25	49	48	31	27	393
萬 分 比	8.7	8.2	11.3	5.2	5.4	6.0	11.2	5.9	11.4	13.7	8.9	5.8	8.4
給 小 使	1,395	1,388	1,395	1,320	1,333	1,320	1,364	2,317	2,730	3,844	3,960	3,100	25,866
呼 吸 器 病 患 者 比				1			1		22	8		2	34
萬 分 比				7.6			7.3		80.6	20.8		6.5	13.1
雇 員	4,464	4,154	4,557	4,530	4,371	3,810	4,743	15,779	16,500	34,658	33,190	35,495	166,241
呼 吸 器 病 患 者 比		2	23	3	12		3	16	86	89	113	71	418
萬 分 比		4.8	50.5	6.6	27.5		6.3	10.1	52.1	25.7	34.1	20.0	25.1
計	758,043	706,520	769,556	761,980	785,974	777,660	823,881	856,929	881,690	920,979	903,330	946,677	9,883,219
呼 吸 器 病 患 者 比	1,080	1,249	1,366	1,231	1,366	1,193	1,186	1,208	1,398	1,377	1,458	1,330	15,412
萬 分 比	14.2	17.7	17.8	16.4	17.4	15.3	14.4	14.1	15.5	15.0	16.1	14.0	15.6

第二表

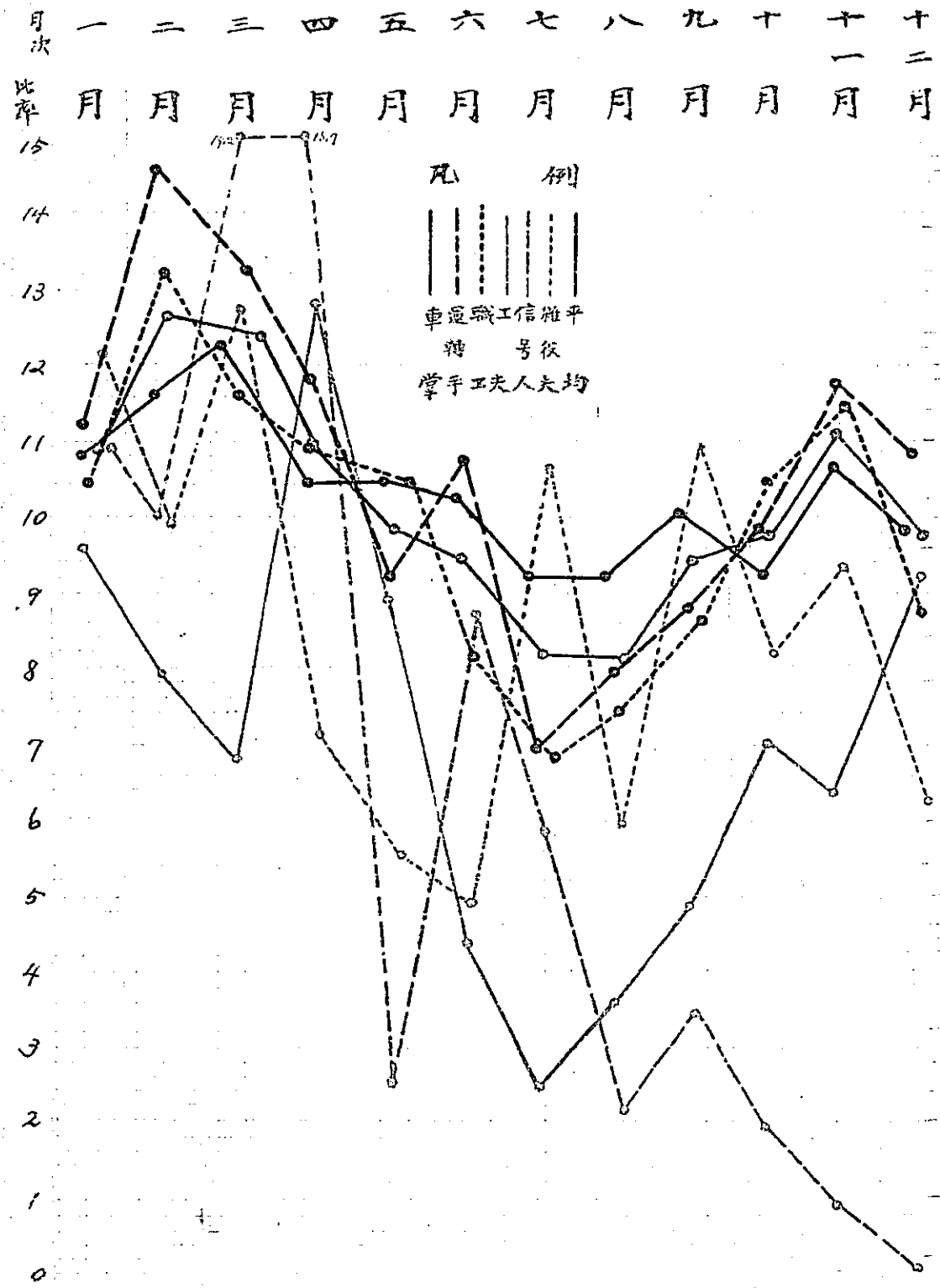
皇大正七年三箇年間に從業員之呼吸器病患者之萬分比率表

第四表 大正七年三箇年間に於ける全患者之呼吸器病患者之の百分比率表

職別	月別	月												計
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
車掌	全患者	4,410	4,186	4,714	4,830	5,758	5,103	6,022	5,986	5,477	5,021	4,967	5,461	61,635
	呼吸器病患者比	477	487	573	472	597	520	552	553	545	460	527	537	6,300
運手	全患者	10.8	11.6	12.2	10.4	10.4	10.2	9.2	9.2	10.0	9.2	10.6	9.8	10.2
	呼吸器病患者比	2,883	2,852	3,231	3,426	4,085	3,610	4,172	4,207	3,875	3,972	3,571	3,602	43,576
人手	全患者	323	417	427	403	374	358	288	338	340	388	419	389	4,491
	呼吸器病患者比	11.2	14.6	13.2	11.8	9.2	10.7	6.9	7.9	8.8	9.8	11.7	10.8	10.3
信託	全患者	46	60	73	30	40	69	100	48	88	107	110	80	851
	呼吸器病患者比	5	6	14	5	1	6	55	1	3	2	1	1	102
職工	全患者	10.9	10.0	19.2	16.7	2.5	8.7	5.8	2.1	3.4	1.9	0.9		12.0
	呼吸器病患者比	1,956	2,053	2,232	2,449	2,054	2,943	3,252	3,395	3,390	3,187	2,846	2,851	33,528
工夫	全患者	204	272	258	268	307	239	222	251	291	332	325	248	3,917
	呼吸器病患者比	10.4	13.2	11.6	10.9	10.4	8.1	6.8	7.4	8.6	10.4	11.4	8.7	9.6
雑役	全患者	407	467	428	461	598	517	533	692	664	713	669	610	6,819
	呼吸器病患者比	39	37	29	59	53	22	14	24	32	50	42	56	457
小使	全患者	9.6	7.9	6.8	12.8	8.9	4.3	2.4	3.5	4.8	7.0	6.3	9.2	6.7
	呼吸器病患者比	264	284	331	283	402	428	454	425	449	589	334	435	4,678
給仕	全患者	32	28	42	20	22	21	48	25	49	48	31	27	393
	呼吸器病患者比	12.1	9.9	12.7	7.1	5.5	4.9	10.6	5.9	10.9	8.1	9.3	6.2	8.4
備員	全患者	20			5.3	47		1		22	8		2	34
	呼吸器病患者比		22	57	29	47	35	25	190	408	472	627	530	2,462
計	全患者	1,080	1,249	1,366	1,231	1,366	1,193	1,186	1,208	1,368	1,377	1,458	1,330	15,412
	呼吸器病患者比	10.3	12.6	12.3	11.0	9.8	9.4	8.1	8.0	9.4	9.7	11.0	9.7	10.0

備考 備員は備、監督、守衛、自動車運轉手、をす

第五表 自大正七年至大正九年 呼吸器病對全患者百分比率表



呼吸器病對全患者百分比率表

月次	平均	雜工	信工	職工	車掌
一月	11.0	10.5	10.5	10.5	9.5
二月	14.5	13.0	12.5	11.5	8.0
三月	13.5	12.5	12.5	11.5	7.0
四月	13.5	12.5	12.5	11.5	7.0
五月	10.5	10.5	10.5	10.5	5.5
六月	10.5	10.5	10.5	10.5	4.5
七月	10.5	10.5	10.5	10.5	2.5
八月	10.5	10.5	10.5	10.5	3.5
九月	10.5	10.5	10.5	10.5	4.5
十月	11.5	11.5	11.5	11.5	7.0
十一月	11.5	11.5	11.5	11.5	6.5
十二月	11.5	11.5	11.5	11.5	0.5

呼吸器病對全患者百分比率表

Main table with 12 columns for months (一 to 十二月) and multiple rows for occupational categories (e.g., 車掌, 運手, 信人) and respiratory diseases (e.g., 肥厚性鼻炎, 喉頭炎, 気管支炎).

Summary table titled '合計' (Total) showing aggregated data for all categories and months.

大正七年以降同九年に至る		従業員の疾病調査		其の四		(循環器病の部)	
種別	人数	種別	人数	種別	人数	種別	人数
1 心 臓 炎	1	2 心 瓣 膜 病	1	3 其 他 の 心 臓 病	1	4 動 脈 瘤	1
5 静 脈、水脈炎	1	6 其 他 の 血 管 及 水 脈 病	1	7 其 他 の 循 環 器 病	1		

大正七年初より
同九年末に至る 従業員の疾病調査

其の四

(循環器病の部)

一、循環器病の種別

大正七年以降同九年に至る満三年間の循環器病類別は其の當時の共済組合醫局の制定にかゝる左の表に従ふこととした。

- 1 心 臓 炎
- 2 心 瓣 膜 病
- 3 其 他 の 心 臓 病
- 4 動 脈 瘤
- 5 静 脈、水脈炎
- 6 其 他 の 血 管 及 水 脈 病
- 7 其 他 の 循 環 器 病

元來、循環器病の如きは、従業員を本電氣局に採用する當時に除外してゐるから、先天性のものや、既に早くより痼疾となつたものは存しない筈である。

二、循環器病と總従業員及び總罹病者との關係

其の一、總従業員との關係、（第一表參照）

大正七年初から三年間の、本電氣局従業員に於ける本病の數は非常に尠い。それは上文に書きたる理由の他に、此の當時の共濟組合醫局は、未だ諸設備も整はず従つて、その取扱ひ得たる患者の數もその病患の性質によりて左右されたのは免れぬからである。さて、

(一) 總従業員一萬人に對して、循環器病者は〇・〇七。

(二) 之を職業別に見るときは最高率の罹病者は車掌と職工と雜役夫とで、共に〇・〇九。次は運轉手にして〇・〇六。

(三) 罹病者の最も少いのは、工夫と信號人とで共に零、その上が雇員、守衛、給仕、小使の一群で〇・〇五、

(四) 之を要するに、總従業員中、罹病率の最も高きは車掌、職工、雜役夫にして、最も低きは工夫と信號人とである。

其の二、總罹病者との關係、（第一表參照）

(一) 總罹病者百人に對しては、百分の〇・〇五。

(二) 之を職業別に見るときは、率の最も高きは雜役夫で〇・〇九、次は職工で〇・〇六、その次が車掌で、〇・〇五、それから運轉手は〇・〇四。

(三) 罹病率の最も低きは工夫と信號人とで共に零、その上が雇員、守衛、給仕、小使の一群である。

(四) 之を要するに總罹病従業員中、本病の發生。最も多きは雜役夫、職工及び乗務員で最も低きは工夫と信號人とである。

三、循環器病者と月次との關係

(一) 總従業員との關係、（第二表及び第三表參照）

(一) 本病は四季を通じて著しき變動がない。少くとも此の統計に據りては、何等一定の所見を得難い。何となれば一時の高率を示すものも、極めて不規則なる罹病情態の一定職業者（例へば信號人）よりの、例外的影響を受けてゐるからである。

(二) 併し之を數を以てその平均曲線の高低を云へば最高は四月で萬分の〇・二。最低は三月と八月とで、共に〇・〇一。

(二) 右の各職業別との關係

(一) 本病に於ては、他の疾病に見る如き、共通性、不共通性の二群を正しく分つことは出来ない。

但、職工と乗務員との罹病率は比較的高く、工夫に於いて最も低き點は、他の疾病に於けると共通の點にして、隨つてこゝにも、多少、二群の型式が保留されてゐるものと認められる。而て雜役夫の罹病率の最も高きは一特徴である。

- (二) 雜役夫に於ける罹病率の最高は、四月で〇・五二、次は一月で〇・二七、次は十二月で〇・二一、其の他は皆零である。
- (三) 車掌に於ける最高は二月で〇・三五、最低は、三、八、九の各月で零。
- (四) 運轉手に於いては、五月と七月とが最高で〇・二四。二、三の各月は最低で零。
- (五) 職工に於いては、四月が最高で〇・三七。而て六、七、八各月は最低で零。
- (六) 右五項を約するに、
 - (1) 雜役夫と乗務員と職工とは比較的罹病率高く、
 - (2) 工夫と信號人とは最低である。
 - (3) 季節的關係として著明に認むべきものはないが、大體、春季と秋季とに多い。
- (三) 全從罹病業員との關係、(第四表及び第五表参照)
- (一) 總罹病者中に於ける本病の存在率は矢張り春季と秋季とに高く夏期中は低く、且、一定情態に止つてゐる。

(二) 其の最高率は四月で百分の〇・二三、最低は三、八、九の各月で共に〇・〇一。

(四) 右の各職業別との關係、

- (一) 各種の職業中、運轉手の罹病率は各月を通じて比較的が高く、その最高は十二月で百分の〇・〇八、又、五月、七月も高くして、百分の〇・〇七。最低は二、三の兩月で零。
- (二) 罹病車掌中の本罹病者は、その發生法が最も平均曲線に近くして、先づ之を以て、その代表者と認むべく、その最高は二月で百分の〇・二二、その最低は三、及び八、九の各月で共に零。
- (三) 各月を通じてこの三ヶ年間本病者の存せざりしは、工夫と信號人と雇員である。
- (四) 雜役夫に於ける最高は四月の〇・七一であるが、是の如きは、何等一定の所見を與ふる點なく、もつと統計材料の多數に集るまで論斷を避けるより外はない。
- (五) 以上の四項を通觀するに、循環器病は、各種の疾病中その發生法が特に高低あることなけれど、比較的盛夏中に少く、冬季及び冷氣の多き時に多い。

四、總 結 論

- (1) 循環器病は、大正七年以降同九年に至る間の本電氣局從業員中には甚しく少い。
- (2) 運轉手や職工の部に比較的多い。

第一表

自大正七年三箇年間従業員に對する循環器病患者比較表
至大正九年

區分	職別	年次	大正七年	大正八年	大正九年	計	平均
延 人 員	車掌		1,007,431	1,147,750	1,419,331	3,574,512	1,191,504
	運轉手		728,032	826,790	1,050,322	2,605,144	868,381
	信號人		17,095	20,039	16,179	53,313	17,771
	職工		552,493	737,395	855,281	2,145,169	715,056
	工夫		249,529	268,281	328,202	846,012	282,004
	雜役夫		140,487	146,470	180,005	466,962	155,654
	其の他		22,689	21,987	147,431	192,107	64,036
	計		2,717,756	3,168,712	3,996,751	9,883,219	3,294,406
何延 かの 疾 病 に 罹 り し 者 の 員	車掌		19,816	19,944	21,875	61,635	20,545
	運轉手		14,252	14,042	15,282	43,576	14,525
	信號人		354	253	244	851	284
	職工		10,407	11,235	11,886	33,528	11,176
	工夫		2,204	1,803	2,812	6,819	2,273
	雜役夫		1,854	1,250	1,574	4,678	1,559
	其の他		209	267	2,824	3,300	1,100
	計		49,096	48,794	56,497	154,387	51,462
循 環 器 病 患 者 延 人 員	車掌		20	4	9	33	11
	運轉手			7	9	16	5
	信號人						
	職工		2	11	6	19	6
	工夫						
	雜役夫		2	2		4	1
	其の他				1	1	0.3
	計		24	24	25	73	24
從 業 員 者 對 循 環 器 病 比	車掌		0.20	0.03	0.06		0.09
	運轉手			0.08	0.09		0.06
	信號人						
	職工		0.04	0.15	0.07		0.09
	工夫						
	雜役夫		0.14	0.14			0.09
	其の他				0.07		0.05
	計		0.09	0.08	0.06		0.07
罹 病 者 對 循 環 器 病 比	車掌		0.10	0.02	0.04		0.05
	運轉手			0.05	0.06		0.04
	信號人						
	職工		0.02	0.10	0.05		0.06
	工夫						
	雜役夫		0.11	0.16			0.09
	其の他				0.04		0.03
	計		0.05	0.05	0.04		0.05

- (3) 車掌の罹病率は最も平均値に近いから、之を以て一斑を推すことが出来る。
- (4) 工夫に於いては本病者は存しない。
- (5) 本病に於いては、他の疾病に認めし如き共通性及び不共通性の二型式につきて判然たる曲線的區別はないが、しかも職工や乗務員に比較的有病が多く、工夫に少き點は、大體に於いて他の場合と共通してゐることを認める。
- (6) 信號人や雜役夫につきては元來その實數が少いのであるから、何等の論結は出来ない。
- (7) 尙、其の他の委細は、上掲の諸表及び第六表を参照せられよ。——以上

昭和十九年三箇年に於ける全従業員之循環器病患者之の萬分比率表

職別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計
車掌	270,186	258,482	270,031	276,910	288,858	288,240	303,397	308,698	305,250	327,670	322,200	337,500	3,574,512
運手	201,438	186,522	204,538	200,250	210,056	209,310	219,846	224,874	222,000	210,095	236,820	249,395	2,605,144
信託	4,650	3,890	4,495	4,170	4,402	4,380	4,619	4,340	4,200	4,805	4,680	4,712	58,313
職工	161,386	152,488	166,617	162,120	167,388	167,520	174,313	186,551	212,580	199,454	194,040	200,662	2,145,169
工夫	36,850	34,248	37,324	38,490	40,517	34,830	42,966	42,067	43,140	34,999	34,650	46,872	466,962
雑役	1	1	1	2	2	1	1	1	1	4	1	2	19
給仕	1,505	1,288	1,395	1,320	1,333	1,320	1,364	2,817	2,730	3,344	3,960	3,100	25,866
備員	4,464	4,154	4,537	4,530	4,371	3,810	4,743	15,779	16,500	34,658	33,180	35,495	166,241
計	758,043	706,520	769,556	751,980	785,974	777,660	823,881	856,929	881,690	920,979	903,330	946,677	9,883,219
	1	10	1	15	6	2	4	1	2	11	8	7	73
	0.08	0.14	0.01	0.20	0.08	0.03	0.05	0.01	0.02	0.12	0.09	0.07	0.07

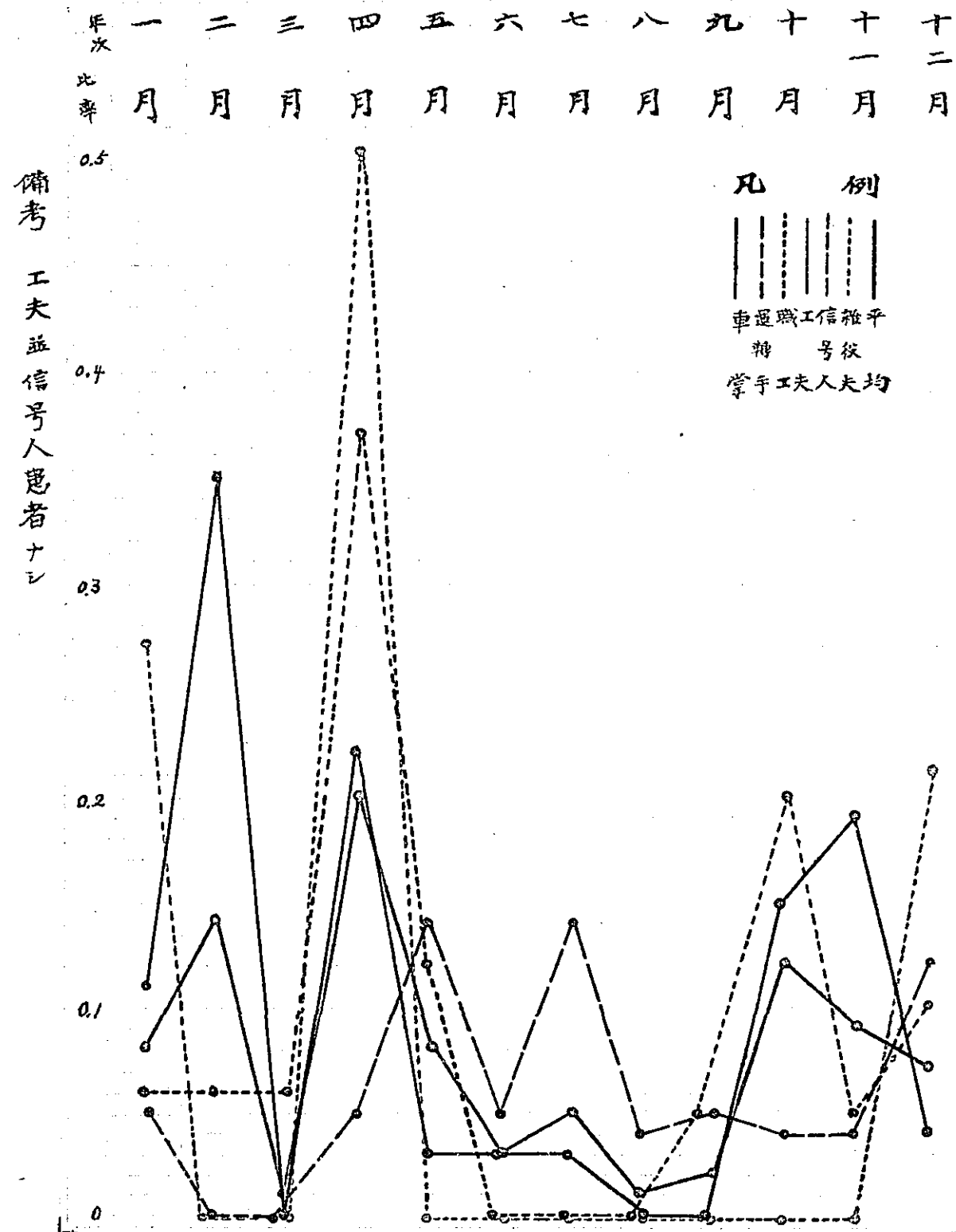
第二表

昭和十九年三箇年に於ける全従業員之循環器病患者之の萬分比率表

職別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計
車掌	270,186	258,482	270,031	276,910	288,858	288,240	303,397	308,698	305,250	327,670	322,200	337,500	3,574,512
運手	201,438	186,522	204,538	200,250	210,056	209,310	219,846	224,874	222,000	210,095	236,820	249,395	2,605,144
信託	4,650	3,890	4,495	4,170	4,402	4,380	4,619	4,340	4,200	4,805	4,680	4,712	58,313
職工	161,386	152,488	166,617	162,120	167,388	167,520	174,313	186,551	212,580	199,454	194,040	200,662	2,145,169
工夫	36,850	34,248	37,324	38,490	40,517	34,830	42,966	42,067	43,140	34,999	34,650	46,872	466,962
雑役	1	1	1	2	2	1	1	1	1	4	1	2	19
給仕	1,505	1,288	1,395	1,320	1,333	1,320	1,364	2,817	2,730	3,344	3,960	3,100	25,866
備員	4,464	4,154	4,537	4,530	4,371	3,810	4,743	15,779	16,500	34,658	33,180	35,495	166,241
計	758,043	706,520	769,556	751,980	785,974	777,660	823,881	856,929	881,690	920,979	903,330	946,677	9,883,219
	1	10	1	15	6	2	4	1	2	11	8	7	73
	0.08	0.14	0.01	0.20	0.08	0.03	0.05	0.01	0.02	0.12	0.09	0.07	0.07

第三表

自大正七年至大正九年 循環器病對從業員萬分比率表



1918	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1919	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1920	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

第四表

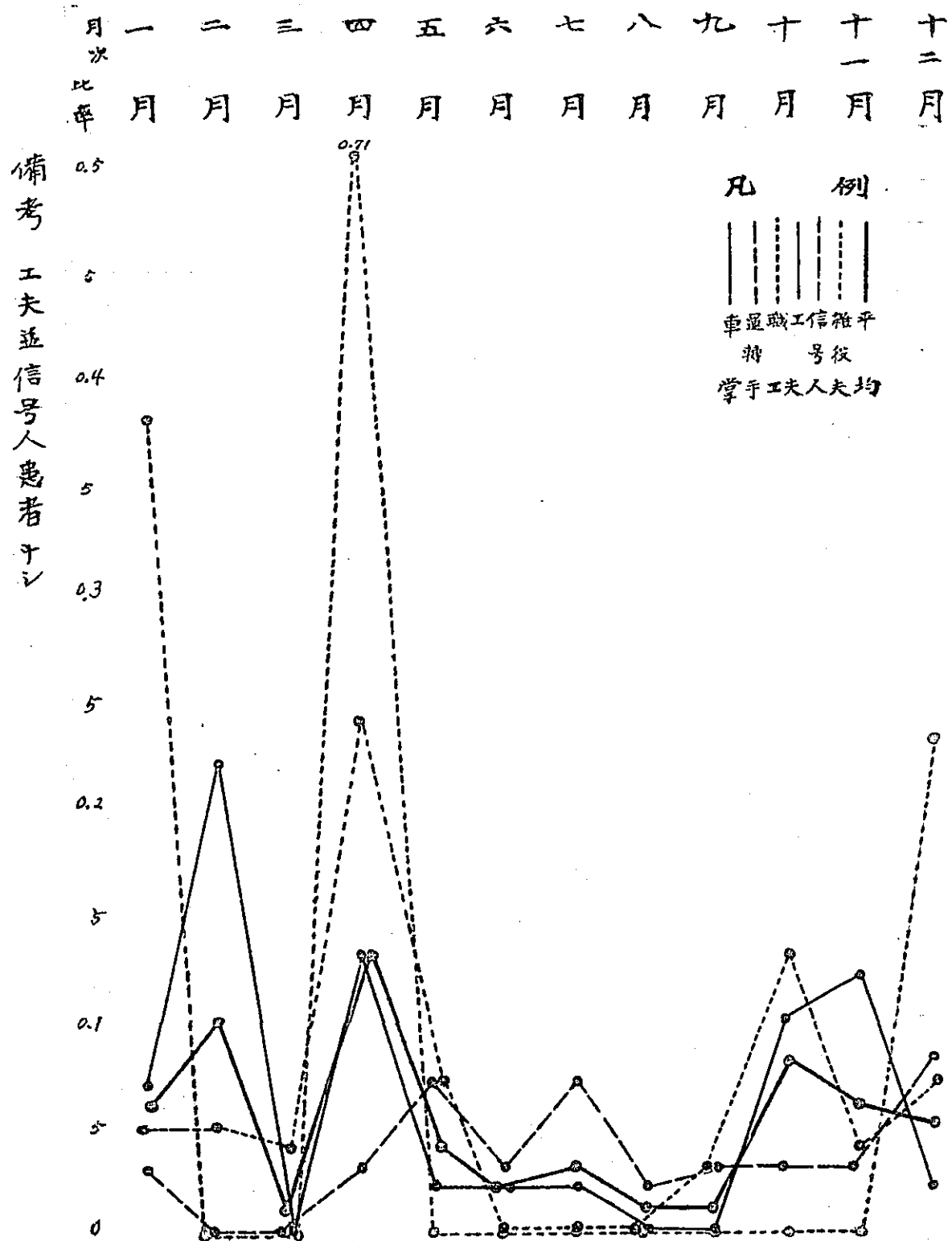
皇大正七年三箇年に於ける全患者の循環器病患者の百分比率表

職別	月別												計	
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
車掌	全患者	4,410	4,186	4,714	4,580	5,758	5,103	6,022	5,986	5,477	5,021	4,967	5,461	61,635
	循環器病患者	3	9		6	1	1	1	1			5	6	1
運手	全患者	0.07	0.32		0.13	0.02	0.02	0.02			0.1	0.12	0.02	0.05
	循環器病患者	2,883	2,852	3,231	3,426	4,085	3,610	4,172	4,207	3,875	3,972	3,571	3,602	43,576
信託人	全患者	1			1	3	1	2	1	1	1	1	3	16
	循環器病患者	.03			0.03	0.07	0.03	0.07	0.02	0.03	0.03	0.03	0.06	0.04
職工	全患者	46	60	73	30	40	69	100	48	88	107	110	80	851
	循環器病患者	1,966	2,063	2,232	2,440	2,954	2,943	3,252	3,395	3,300	3,137	2,846	2,851	33,523
工夫	全患者	1	1	1	6	2				1	4	1	2	12
	循環器病患者	0.05	0.05	0.04	0.24	0.07				0.03	0.13	0.04	0.07	0.06
雑役	全患者	407	467	428	461	508	517	503	692	664	713	669	610	6,819
	循環器病患者													
給仕	全患者	264	284	331	283	402	423	454	425	440	580	334	435	4,678
	循環器病患者	1			2								1	4
備員	全患者	0.38			0.71								0.23	0.09
	循環器病患者	20	5	29	19	15	21	38	76	184	135	168	113	838
計	全患者	20	22	57	29	47	35	25	190	408	472	327	530	2,462
	循環器病患者	10,025	9,939	11,035	11,227	13,899	12,726	14,656	15,109	14,535	14,196	13,292	13,688	154,387
計	全患者	6	10	1	15	6	2	4	1	2	11	8	8	73
	循環器病患者	0.06	0.1	0.01	0.13	0.04	0.02	0.03	0.01	0.01	0.08	0.06	0.05	0.95

第五表

自大正七年
至大正九年

循環器病對全患者百分比率表



Faint, illegible text in a large grid on the right page, likely bleed-through from the reverse side of the document.

